

たかしま

Takashima City
Public Relations

広報

2024

令和6年

4

月号

No. 291

一日消防官 防火キャンペーン

春の火災予防運動のひとつとして、高島市防火保安協会の協力で、市内事業所から一日消防官を選任し、大型店舗で啓発活動を行いました。



主な
内容

特集1 令和6年度 施政方針 2

特集2 大溝陣屋総門がオープンします 6

・高齢者福祉計画・第9期介護保険事業計画を策定しました！ 8

・令和6年度里湖で地域を結ぶウォーキング開催案内 11

無料アプリ「マチイロ」で広報たかしまが読めます！

「広報たかしま」はスマートフォンアプリ「マチイロ」でも配信しています。
スマートフォン等から当アプリをダウンロードしてお使いください。

マチイロ

検索

※アプリのダウンロードは無料ですが、
通信費は利用者のご負担になります。

高島市公式

フェイスブック
Facebook

インスタグラム
Instagram

ライン
LINE

で情報発信中！



こちらの名前でそれぞれ検索してご登録をお願いします。

・Facebook「あっと高島」・Instagram「takashima_city #たかP写真館」・LINE「@takashima_city」【たかP】

イメージキャラクター



の実現に向けて取り組んでいきます。

農林水産業を取り巻く環境は、従事者の高齢化による後継者や担い手の不足、資材価格の高騰等の課題が山積する中で、担い手の確保と農業経営の安定化が懸案となっています。

このような状況を踏まえて、新規就農者の育成・定着を図るため、経営開始資金や初期投資への支援を行っています。

また、中山間地域振興事業や農村まるごと保全向上対策事業を進めるとともに、地域での話し合いを通じた農地の集約化など、将来の農地利用の姿を明確にするための地域計画の策定を進めていきます。

また、上安曇地区ほ場整備事業の実施については、農地の大区画化や水田の畑地化を推進し、担い手を中心に農地の集積・集約化を図り、農業の競争力強化と安定的な農業経営の確保を図っていきます。

林業分野では、森林境界の明確化が困難になっているため、新たに航

特集1

令和6年度 施政方針

秘書課 (25) 8415

令和6年2月21日開会の高島市議会3月定例会において、福井市長が示した施政方針の概要を第2次高島市総合計画の6つの政策分野ごとにお知らせします。

はじめに

令和6年度は、平成17年1月1日に高島市が発足してから20年の節目を迎える年度となります。

これまで本市のまちづくりを支えてこられた多くの先人の努力に思いを馳せながら、これからの高島市の発展と輝かしい未来に向けた決意を市民の皆さまと共有しながら、市制20周年記念事業を展開していきます。

① 「かもす」産業・経済

雇用の創出をはじめとする地域産業の発展に向けた施策の推進は、若者の定着や活力あるまちづくりを進めるうえで極めて重要な取り組みであります。

引き続き、経済団体等と連携しながら、各種のセミナーや合同就職説明会などを積極的に開催し、企業の設備投資や人材確保に向けた取り組みへの支援を行います。

② 「あゆむ」子育て・教育

子ども・子育て政策の強化に向け、昨年12月に国で「こども大綱」と「子ども未来戦略」が策定されたことを踏まえて、本市としても、「子育てしやすい高島市」の実現に向け、各種施策のさらなる充実を図っていきます。

本年1月には、子育て家庭が抱える、育児への不安や児童虐待、不登校などの相談支援を包括的に行う「こども若者応援ベース、みらくる」を開設したところであり、令和6年度には、母子保健分野との連携強化を図り、改正児童福祉法に規定される「こども家庭センター」としての体制を整えるとともに、「教育相談・課題対応室」や「結びと育ちの応援団」を施設内に移転し、子どもや若者に関する相談機能の集中化を図っていきます。

また、新たな子育て支援策として、育児不安など、出産後のご家庭への支援として、「乳児おむつ等支給事業」を開始します。

出生から満1歳までのお子さんを対象に、子育て経験のある配達員が

高島市長
福井 正明



さらに、新たな取り組みとして、「たかしま発酵のまちづくり構想」の策定に取り組んでいきます。本市では、古来、伝統的な食文化が継承され、発酵食に関するさまざまな地域産業が根付いています。

コロナ禍を経て、改めて健康意識やサステナブルな暮らしへの志向が高まる中、本市の発酵食文化を後世へと発展的に継承し、今後のまちづくりに生かすため、発酵文化を生かしたまちづくりの方向性を構想として取りまとめていきます。

また、平成27年にリゾートトラスト株式会社と協定を締結した会員制リゾートホテルが、いよいよ本年10月に開業を迎えます。

従業員規模は約260人で、既に市内におきましても採用活動が本格化しており、新たな雇用機会の増大も期待ができることから、市内経済への波及はもちろん、本市のブランド力向上や関係人口の拡大へとつながっていきます。

紙おむつなどの育児用品を毎月無料でお届けし、お子さんと保護者に直接お会いすることで、母子の健康状態の確認や子育ての悩みの相談などをお受けする、アウトリーチ型の子育て支援を進めるなど、引き続き本市が誇る子育て世代への各種支援策の充実に取り組んでいきます。

学校教育では、各小・中学校に配備した1人1台のタブレット型端末を効果的に活用し、学び方改革を進めるとともに「地域とともにある学校づくり」を推し進め、地域と一体となつて子どもの豊かな成長を育む教育環境づくりに努めていきます。

また、学校不登校の課題等に対応するため、スクールソーシャルワーカーを市単独で配置し、不登校やいじめ問題の未然防止、早期解決に向けた取り組みを推進していきます。

さらに、子どもたちの学びを経済的に支援するための「清水安三育英資金」「高島屋奨学金育英資金」さらには「高島市育英資金」の3種類の育英資金制度を改正し、進学意欲のある方に対する経済的負担のさらなる軽減を図り、次代の高島市を支える人材育成を行っていきます。

社会教育では、人生100年時代と言われる中で、市民一人一人が、自らのライフスタイルに応じて学んでいただけるよう、「市民大学たか

観光振興

観光振興では、3月16日に、北陸新幹線が金沢駅から敦賀駅まで延伸されることから、北陸と北関東地域を対象に本市の認知度向上に向けたプロモーション活動を行い、新たな観光客の獲得に向けた取り組みを進めていきます。

併せて、市内唯一の特急停車駅であるJR近江今津駅では、駅構内の改修やデジタルサイネージの設置を行い、観光客等への情報発信を強化するなど、市内観光の周遊促進につなげていきます。

また、令和5年度に策定しました「たかしま観光ビジョン」は、今後10年間の本市の観光振興の方向性を定めたものであります。

本市が誇る自然景観や歴史文化を未来へつなぎ、たかしまファンを創出し、さらには稼げる観光地域づくりを目指して、事業者や関係団体、市民の皆さまのご協力のもと、ビジョン

③ 「じむぐ」健康・福祉

単身世帯の増加や地域でのつながりの希薄化などを背景に、多様化・複合化した生活課題が顕在化しています。

社会的孤立や生活困窮など制度の狭間に陥りやすい支援ニーズに対しては、引き続き、重層的支援体制整備事業で包括的な相談支援体制の強化を図り、地域共生社会の実現を目指していきます。

また、認知症や障がいなどによって意思決定支援などが必要な方に対しては、関係機関と連携して権利擁護の支援に努めていきます。

令和6年度からスタートする新たな「たかしま障がい者プラン」に基づき、地域共生社会の実現に取り組みむとともに、精神障がい者に対する医療費助成については、県の補助制度の拡充に合わせ、福祉医療費の助成対象を拡大していきます。

次に、健康づくりに関しては、令和6年度は「第4次健康増進計画」の策定に着手するとともに、生活習慣病予防や重症化予防対策として集団健診の検査内容について充実を図っていきます。



高齢者福祉の分野では、新たな「第9期介護保険事業計画」に基づき、安定的な介護サービスの提供と介護人材の確保に努めることとし、介護保険料については、介護保険給付基金の活用等によって基準額を据え置くこととします。

また、高齢者やご家族の相談体制の充実を図るため、民間事業者への委託によって、新たに南部地域を担当する地域包括支援センターを開設します。

病院事業については、これまでに市民病院と朽木診療所、介護老人保健施設 陽光の里との事業を統合し、経営の合理化と健全化を進めてきたところであります。

4月からは、新たに訪問看護ステーションの事業を統合して、医療と介護、さらには在宅療養支援機能の充実を図ることで、地域の多様化する医療ニーズに応える体制を整え、病院事業の持続的な運営に努めていきます。

また、令和7年度に本県で開催される「わたしが輝く国スポ・障スポ大会」に向けましては、昨年12月に高島市実施本部を設置したところであり、本大会に向けての準備はもとより、まずは、今年の秋に開催する競技別のリハーサル大会に向けて事務局体制を強化するなどしっかりと対応してまいります。

④ 「せせらぐ」暮らし・文化

移住定住の推進に向けた取り組みとしては、引き続き移住定住「コンシェルジュ」による移住希望者へのきめ細かな対応を行い、本市の魅力や暮らし、空き家の情報などを積極的に発信していきます。

また、JR西日本と連携して取り組んでいる「おためし暮らし」は、移住定住のきっかけづくりとして成果をあげていることから、さらにおためし物件の充実を図りながら定住促進につなげていきます。

豊かな自然景観や歴史遺産は、本市の誇れる財産であります。

令和5年度に保存整備が完了した「大溝陣屋総門」の積極的な情報発信を行い、誘客促進を進めるとともに、さらに、貴重な文化財資料の保存と有効活用を図るため、「近江聖人中江藤樹記念館」を、市の歴史

文化を発信する拠点とするための改修整備を行っていきます。

新たな環境センターの整備につきましては、「ごみ処理施設建設検討委員会」において検討を重ねていただき、また、周辺地域での説明会やパブリックコメント等でいただきましたご意見を踏まえ、このほど泰山寺地先での施設整備に向けた「新ごみ処理施設整備基本計画」の策定に至ったところであります。

令和6年度は、策定しました基本計画に基づき、新たに造成基本設計や施設基本設計、整備・運営事業者の選定業務に取りかかるほか、引き続き、生活環境影響調査の実施や、搬入路の整備に向けた検討につきましても鋭意進めてまいります。

また、泰山寺区および周辺区・自治会の地域振興に向けた支援も開始し、周辺地域の課題解決に真摯に対応していきます。

ごみ処理は、市民の皆さまの日常生活を支える最も身近な行政サービスでありながら、現在は、三重県伊賀市に緊急避難的に受け入れていただいている状況でありますことから、令和11年度中の焼却施設稼働に向け、着実に事業を進めてまいります。

また、2050年カーボンニュートラルに向けては、令和5年度に策定に着手した「地球温暖化対策実行

計画（区域施策編）」に基づきまして、行政のみならず、市民や事業者を含め、脱炭素化の推進を通じた自然との共生や、省資源・省エネルギー化による循環型社会の形成に向けた施策や取り組みについて検討を進めていきます。

災害への備えについては、近年頻発しています集中豪雨や近い将来の発生が懸念される大規模地震等に対応するため、防災・減災対策の強化は急務であります。

そのため、令和5年度から着手している新たな防災行政無線システムの整備においては、今年の秋頃から順次、各ご家庭への戸別受信機を設置を進めていくとともに、SNSの活用によってスマートフォン等への情報発信を行っていきます。

加えて、災害発生時には「自助」、「共助」、「公助」が連携して対応することが不可欠であるため、地域での防災意識の啓発をはじめ、地区防災計画の策定や、要支援者の個別避難体制の構築、さらには地域防災体制の要である消防団との連携を強化していくことで、地域防災力の向上を図っていきます。

間としている公共施設等総合管理計画が10年目の改訂年度を迎えることから、これら計画の達成状況等を見定め、新たな課題等への的確に対応できるよう、両計画の見直しを進めていきます。

わが国全体の人口減少が加速化している中、本市でも人口減少を避けることはできませんが、一方で、昨年の本市への転入者数は、近年の中では高い水準となっており、一昨年は以降はこれまでのような大幅な転出超過の傾向が改善されつつあります。

これは、これまで地方創生の取り組みで特に力を入れて進めてきた、移住定住や子育て支援の充実、関係人口の開拓などによるものと分析をしており、市民の皆さまとともに築き上げてきた本市の魅力をさらに磨き上げること、これからも「選ばれるまち」を目指していく必要があります。

そのため、令和6年度は、デジタル技術を活用した施策なども検討しながら、人口の社会増減のプラスを維持していくための新たな総合戦略を策定していきます。

また、本市へのふるさと納税では、令和5年度は前年度を大きく上回る約6億7千万円が見込まれ、全国の高島ファンの皆さまから温かいご支援をいただいています。

⑤ 「やまね」生活基盤

大規模地震等の災害を見据え、強靱で広域的な道路ネットワークを構築することは極めて重要であり、なかでも幹線道路である国道161号の改良整備は、本市にとって喫緊の課題であります。

そうした中で、国道161号バイパスの整備は、大津市内の湖西道路や小松拡幅14工区（北小松地先）で令和7年秋の開通が予定されていますが、本市としては、安曇川地区交差点立体化区間の早期開通と併せて、現在、環境影響評価や都市計画決定の変更手続きが進められている白鬚神社の背後地におけるバイパス整備（小松拡幅13工区）について、一刻も早い事業着手が実現されるよう、関係機関に強く働きかけていきます。

また、近年の地域公共交通を取り巻く環境は、人口減少や、運転手不足の深刻化等によって極めて厳しい状況にあります。

そのため、マスタープランである「地域公共交通計画」および、令和5年度に策定しました「地域公共交通利便増進実施計画」に基づきまして、持続可能な公共交通網の構築に向けて取り組んでいきます。

水道事業では、「第2次水道事業

⑥ 「じんぎょく」行政経営

私が就任以来、持続可能な行政経営を構築し、自信と誇りを持って次の時代につないでいくという信念のもと、職員数の適正化や公共施設の再編、また遊休財産の売却処分など、さまざまな行財政の改革を進め、その成果を着実に積み上げてきたところであります。

一方で、急速な人口減少による新たな財政需要や、公共施設やインフラ施設の老朽化、激甚化する自然災害に対する防災減災・国土強靱化の推進に対応するためには、さらなる行財政改革に取り組む必要があります。

令和6年度は、現在の高島市行財政改革計画の最終年となりますことや、平成27年度から30年間を計画期

ポイント

今後も、本市が誇る特産品や地域資源を戦略的にPRし、貴重な財源確保と関係人口の開拓に取り組んでいきたいと考えています。

市政運営には他にも数多くの課題が山積していますが、引き続き、次の世代に責任が持てるまちづくりに向けて、職員の皆さんとともに取り組んでいきますので、より一層のご理解、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。令和6年度の施政方針といたします。

施政方針の原文は、市のホームページ「Web市長室」の「施政方針」コーナーに掲載しています。

重要文化的景観拠点施設

大溝陣屋総門がオープンします

閩文化財課 025-8559

重要文化的景観「大溝の水辺景観」の重要な構成要素で、市の指定文化財でもある「大溝陣屋総門」の復原工事が完了し、4月1日（月）から重要文化的景観拠点施設「大溝陣屋総門」としてオープンします。

江戸時代に大溝陣屋の正門として建てられた当時の姿をできるだけ再現し、内部は、地域案内の拠点や大溝城などの地域の歴史を紹介する展示室として活用します。多くの皆さんに気軽にお立ち寄りいただき、地域の歴史や生活文化に触れていただくことができる施設になることを目指しています。



大溝藩主だった分部家の家紋が入っている



当時の面影を伝える出格子

根継ぎされた柱

新たに整備した古式水道

文化財工事の工法を使った復原

復原工事を行う前の大溝陣屋総門は、東西両棟に二階建ての建物が増築されるとともに、入口の位置の変更など大幅な改造が施されていました。

今回の復原工事では、近代の増築部分を除却するとともに、礎石や柱の痕跡等から創建時の姿を推定し、それにより近い建物になるよう修理を行いました。

また、創建時に使われていた古材をできるだけ残すため、腐食している部分だけを新しい材に入れ替える「根継ぎ」と呼ばれる工法が用いられました。



復原工事前の総門



工事中



根継ぎ作業



歴史資料の展示や映像を上映する東部屋



大溝の水辺景観まちづくり協議会スタッフの二人

常駐スタッフがいる西部屋

はじめとする周辺の古代遺跡を紹介する展示や、大溝城築城当時の姿をCGでよみがえらせた再現映像の上映を行います。

地域の拠点として

4月から、大溝の水辺景観まちづくり協議会の運営による「大溝陣屋総門」がオープンします。西部屋は来訪者の案内窓口として、常駐スタッフが地形ジオラマなどを使って地域の歴史や観光情報等を案内します。東部屋では、鴨稻荷山古墳を

大溝陣屋の概要

大溝陣屋総門は、江戸時代に高島市南部におかれた大溝藩の陣屋（藩庁と武家屋敷群からなる区画）の正門で、宝暦5年（1755）に建てられた長屋門形式の建物です。明治時代に個人所有となり、増築や改修を重ねながら住居や商店として利用された後、平成16年度に公有化されました。平成27年に周辺一帯が国の重要文化的景観「大溝の水辺景観」に選定され、大溝陣屋総門はその重要な構成要素に位置付けられました。その後、貴重な文化財建造物でもある建物を地域のシンボルとして活用するための手法の検討が行われ、今回の保存修理が実現しました。